

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（5月分）

留学先大学：ハンブルク大学

氏名：長田優輝

みなさんこんにちは、長田優輝です。
ハンブルク大学に来て2カ月が経ちました。



今月は四月に比べて月日が経つのが早かったように感じます。日常がガラッと変わりいろいろとストレスを抱えていた四月に比べ、五月は諸手続きも終わり、ゆっくりと環境に慣れる時間が取れたので良かったかなと思います。

今回の月例報告書ではドイツに2カ月いて思う「ドイツという国、またドイツに留学するということ」について中心に書いていこうと思います。先月の報告書の内容と多少かぶるところもありますが、今後留学先を決める人たちにとって参考になればと思います。

はじめに述べておきたいのが

ヨーロッパだから英語が通じるというのは完全なる偏見です。

日本でよく「日本の行政手続きは日本語表記しかなくて外国人に優しくない」といったような声を聴きますし、私もそういった面で他の先進国に遅れているのだろうと思っていました。しかしそれはドイツも同じです。行政手続きや保険への加入手続きはドイツ語で行われます。駅や市内の看板もドイツ語しか書いてないので、むしろ日本のほうが親切なのではないかとも思います。

ドイツでは移民や難民に対して入国してから何カ月以内にこのレベルのドイツ語能力を示

さないとドイツで生活することを認めませんという決まりを政府主導で行っているため、観光客を除けばほとんどすべての人がドイツ語を話せます。そのため手続きや看板などもドイツ語しか書かれていないのでしょう。

つまりドイツの基本スタンスは

ドイツ語を話せないのに来たやつは知らないよです。

そのため聞いた話では明らかに英語が分かっているにもかかわらずドイツ語でしか返さない人も少なくないそうです。また日本語が分からない外国人のために拙い英語を使ってみたりジェスチャーで何とか伝えようとしたりする日本人と違い、ドイツの人はこっちが分かっているなくてもお構いなしにドイツ語を押し付けてくる人が多いです。

もちろん英語を話せる人も多くいます。ハンブルク大学の学生はだいたい話せるでしょう。しかしハンブルク大学のような日本でいうところの四年制大学でない大学に通っている人や大学に通ってない人などは英語を話せない人が多いようです。また大学生は英語が喋れるとは言っても学内の会話はドイツ語でなされていますし、授業も英語で開講されているものは多くありません。そのためドイツで英語を見る機会、聞く機会というのはほぼないと言っていいでしょう。

ここまで書いてお分かりのようにドイツは日本と似て、現地語主導の国です。そのためドイツ語を伸ばしたいという人にとっては当然最適な場所だと思います。その他にもなんらかのドイツ文化に興味があるなど、「ドイツで学ぶ」ということに目的があり、以上のことを理解したうえでドイツを留学先に選ぶのであれば問題はありません。もしくは本当のマイノリティーの苦労を経験したいといった理由でドイツを選んでもよいかもしれません。

しかし、特にドイツで学ぶ目的もなく、とりあえずヨーロッパに行ってみたいからという理由や、ドイツ語が現地語ではあるけれど、ヨーロッパだし英語も伸ばせるだろうというような理由でドイツを留学先に選ぶのはもちろん構いませんが、あまりおすすめはしません。

【今月の出来事】

今月は港まつりとして世界最大級ともいわれる Hafengeburtstag というお祭りがハンブルクで行われました。毎年 100 万人を超える人と 300 隻にも及ぶ船が港に集結します。船の入港パレードや出航パレード、花火などが催され多くの屋台も出店していました。



また個人的には好きな音楽バンドのベルリン公演を見に行ったり、日本人学校にお邪魔してけん玉を教えたりと趣味を活かした活動が多かったように感じます。

それでは今月の報告書はこのあたりで
さようなら